

課題名：鶏糞肥料を利用した肥料コスト低減に向けての取組み

～資材価格高騰に対応した

新たな省エネルギー・省資源型農業生産体系への転換に向けた取組支援～

山口農林事務所農業部

恵美奈 大作

<事例の概要>

1 対象地域

山口市名田島（耕地面積 545ha、農家戸数 252 戸）

2 背景及び課題

①麦・大豆作の連作による地力低下

当地域においては、固定的なブロックローテーションによる麦・大豆作の連作障害による地力低下が収量性低下の大きな課題となっている。

また、エコファーマーになっている営農集団も多くあり、堆肥散布がその要件の一つともなっていた。

②法人経営における肥料コスト削減

当地域においては、個別経営体から組織経営体（法人経営）への転換期に当たり、法人経営が地域の担い手の中心になりつつある。

また、H20年7月、肥料価格が高騰するという全国情勢が加わり、法人経営の発展・継続のためには、資材費の低減という視点は避けられない情勢となった。

3 取組概要

①鶏糞散布システムの構築

◇地区外から鶏糞を確保

当地域の周辺には、まとまったロットの鶏糞がないため、下関市の養鶏農家と大ロットでの購入契約（JAが注文数量を一括契約）を締結

◇ほ場散布まで一括して行うシステム

生産者は、JAに注文するだけで、地区内の鶏糞散布業者（農）榎野、（農）GF名田島が散布まで行うシステムを構築

②肥料コスト削減モデルの作成

◇鶏糞の燐酸・加里成分が多い点を活用

鶏糞においては、燐酸・加里成分が高いことから、窒素成分の肥料のみの追肥で、麦栽培（＋水稻栽培）が可能か否かについて検討し、削減モデルを作成

◇資材費低減モデル試験を設置

比較的安価な単肥（例：硫安）を用いた試験ほを設置

（参考）当地区は、土地利用率200%の農業を展開しているため、鶏糞が散布できるのは、麦の播種前（約1ヶ月）のみ

4 取組成果

①発酵鶏糞の散布面積

◆H20年：60ha（取組初年目）

◆H21年：72ha（ただし、名田島地区は60ha）

※地区全体の約1割のシェア

②肥料コスト削減モデル試験ほを設置

◆麦栽培：鶏糞＋硫安追肥体系の実用性を確認

◆水稻栽培：麦作前鶏糞＋LP被覆尿素体系の実用性を確認